

補助29号線、放射2号線、補助28号線。「防災のため」と偽り1000億円投じ 住民を追出す道路計画

実は 防災に役立たず、税金の無駄遣い!

品川区内で計画されている3本の道路路線



*イメージ図

- 「道路問題しながわ連絡会」構成4団体
- ・「住民の暮らしと安全・環境を守る会」…… 補助29号線(大崎3丁目~二葉4丁目)
 - ・「安全・安心・みどり豊かなまちを考える西大井・大井住民の会」…… 補助29号線(西大井4~6丁目)
 - ・「武蔵小山の環境を考える会」…… 放射2号線
 - ・「池上通り(補助28号線)の幅に納められない・暮らしと営業を守る会」…… 補助28号線

理由①

延焼を遮断すると言うが・・・

いざ大地震が起これば、品川では40ヶ所から出火と言われています。そうなれば、道路以外はみな燃えてしまうことになります。何より ・火を出さない ・初期消火体制の拡充こそ急ぐべきです。



理由②

避難道路と言うが・・・

災害時は、遠くの避難所ではなく、近くの広場や公園に一時避難するのが現実的です。ところがこれらの道路計画は、避難場所である「防災広場」や公園、大学キャンパスなどを幾つもつぶしてしまう計画です。道路でなく、防災広場や公園の整備こそ急ぐべきです。



3・11 23:59 東大本郷キャンパス付近の車道の様子

理由③

消防車を通すためと言うが・・・

災害時には、大きな道路は大渋滞を起こし車は通れなくなります。消防車を通すのに幅20mもの巨大道路は必要ありません。地域住民と相談して生活道路を整備し、消火設備の設置などを早急に行うべきです。

理由④

商店街を壊し、住民を追い出し、地域の絆を壊します

補助29号線は、全国にも有名な「戸越銀座商店街」を分断します。戸越公園駅周辺の商店街も片側は削られてしまい、商店街が壊されてしまいます。また29号線だけでも550棟の建物(都の説明)が立ち退きを迫られ、商店会や住民から「道路計画」に反対する声が広がっており、テレビや新聞などでも大きく報じられました。(TBSテレビ、テレビ朝日、東京新聞など)「街あつての防災」。地域の絆こそ「防災」の大きな力です。



2013年12月、中央防災会議・首都直下地震対策ワーキンググループは「転倒防止」「感振ブレーカ普及」など、耐震化・出火対策により死者が9割減ると発表。

防災というなら 住宅耐震化、難燃化、初期消火体制の支援にこそ本腰を入れるべきです。

- ◆住宅の耐震化支援(現在は1/2、150万円上限)の大幅拡充
- ◆家具転倒防止器具設置支援の拡充と普及
- ◆感震ブレーカ(揺れを感知してブレーカーを自動的に落とす)の普及支援
- ◆高齢者や障害者など災害要援護者を含む避難所体制の充実
- ◆地域の初期消火体制の充実(ミニポンプ、街頭消火器、防火水槽等の配備)
- ◆消防車と消防員の増員
- ◆水道・下水道管の耐震化、電線の埋設化

どうなっているんですか! 区議会議員のみなさん

本計画線の起点である品川区大崎三丁目には、「居木橋貝塚跡」や区立小学校および私立の各教育施設が建ち並び、自然環境に恵まれた歴史的・文化的な地域です。さらに、戸越宮前地区は、本計画線が通過することにより、「にぎわい創出地区」に指定されている戸越商店街は分断され、八幡坂通り、宮前商店街、戸越公園中央商店街、戸越公園駅南口商店街の四つの商店街が消え去ってしまいます。豊町地区から西大井地区にかけては、良好な住宅地に、本計画線が通過することにより、500世帯もの住民に甚大な影響が及んでしまいます。本計画線は、地域の防災性の向上を図るとともに、地区の交通を分担する機能を果たす地区幹線道路として位置付けられています。また、既に、本計画線の西側わずか500メートルほどの近接距離に国道1号線が走っています。また、第163号線、第205号線、第18号線など、都市軸を結ぶ幹線道路の早期完成が期待されている中で、本計画線は、時代のニーズにそぐわないものになっています。よって、品川区議会は、区内の商業住宅密集地域を縦断し、多くの区民の生活や商業活動に多大な影響を与える都市計画道路補助29号線の計画を廃止するよう強く要望いたします。

《2002年区議会決議文》

2002年に29号線の計画を廃止、区議会・全会一致の計画を忘れたんですか!
東京都に申し入れたことで採択

ひと言も意見いわずに……6月30日に区議会建設委員会で「道路問題しながわ連絡会」と「武蔵小山の環境を守る会」が提出した陳情と請願（道路計画の中止を求める）の審議が行われた。何と驚くことに、発言して陳情・請願に賛成したのは日本共産党の区議だけ。自民・民主・公明・その他及び無所属党派議員は、一言も意見を述べずに反対・不採択にしました。

①終戦翌年の1946年に計画されたことを知っていますか

補助29号線、放射2号線、補助28号線（池上通り）は戦災復興のための道路として、昭和21年に計画されました。当時は東京の多くは焼け野原の状態です。街が大きく変貌したのに、公聴会は1回もなく、住民の意向も聞かずに都と区は推進しています。

②三つの道路建設（池上通りは拡幅）で数千人が立ち退きに

29号線だけでも550棟、三つで約800棟、数千人が住みなれた土地から追出されます。しかも日本は高齢化を迎え、計画道路地域も多くの高齢者が住んでいます。「この家で死にたい」「75・80歳になっていまさら引っ越しなんて」との声が多くあがっています

③交通量は減っているのになぜ新しい道路が必要なのか？

直近の交通量調査は平成22年（2010年）に行われましたが、全国、都内でも一般道路は概ね、交通量が減っています。その上、今後はさらに減少する傾向にあり、乗用車の小型化も進んでいます。品川区内および大田区の調査結果を示します。（各丁目は調査地点です）

山手道路：大崎1丁目	H9年：24193台	H17年：22725台	H22年：18464台
第二京浜：西大井6丁目	H9年：46374台	H17年：39627台	H22年：32656台
池上通り：大井6丁目	H9年：11888台	H17年：10819台	H22年：9752台
環七通り：大森北5丁目	H9年：38113台	H17年：37780台	H22年：33561台
中原街道：旗の台5丁目	H9年：36751台	H17年：35159台	H22年：31516台

④品川区のパブリックコメント（意見公募）でも道路建設反対が多数

品川区が実施したパブリックコメント「2012年の品川まちづくりマスタープラン」に対しては、賛成：40（条件付き）、反対：87 および2013年の「品川区長期基本計画改訂素案」に対しては、道路問題に関し90人余が意見を出し、その圧倒的多数が道路建設に反対・否定的意見でした。

住民の意見無視。ひどい!



浜野区長はこれを無視して東京都に事業推進を申し入れ、北・杉並・足立・台東区長は特定整備路線を都に断る

⑤濱野区長が「2020年までに出来るわけない」と……発言!

2012年11月に西大井の地域の集会で、濱野区長は「……都の防災計画で29号線を通すことで、火災危険度は確実によくなる。この線の下に550棟ある。その下に生活している人は容易なことではない。2020年に出来るわけはない。26号線何十年とかかっているのに8年で出来るか」「区はかつてこの道路に対して議会が廃止の請願をもちかけた。都は絶対必要だという」「制限されたまま、いつまでもそのままでは困る。やるなら早くやってもらいた

「防災のための命の道路」の説明はゴマカシだった!

都と区は、3路線9地域での十数回の説明会（2000人余が参加）で、道路目的を「防災のための命の道路」としつこいくらい説明しました。住民から「交通量はどのくらいになるのか」と質問されると、「わからない」という回答。

なのに国土交通省に出した29号線の2区間の事業認可申請の理由には「交通の円滑化」が主目的で、防災のためは付けたしだったのです。しかも説明では、交通の円滑化のことなど一言も言いませんでした。

住民をダマシテつくる計画道路は許せない!